

令和3年度 事業計画

本年度、日展は公益社団法人へ移行し10年目を迎えます。引き続き会員一人一人が公益法人としての日展の役割を自覚し、美術文化の振興・発展に寄与するべく、公益目的事業の達成に努めてまいります。

また、新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが不透明な状況で、引き続き感染症対策への取り組みの徹底が求められており、昨年同様、各事業とも様々な制約がある中での実施となりますが、それぞれに携わる人々や展覧会鑑賞者の安全・安心の確保を最優先し、進めてまいります。

本年度実施する各事業の内容詳細は別表計画書の通りであります。まず、今秋開催予定の日展は、第1回文展まで遡れば114年目の展覧会であり、六本木の国立新美術館における開催は、15年目となります。展覧会名称については「改組 新」をとり「第8回日展」として開催いたします。

昨年、感染症対策のため、改めて見直した会場構成や、サービス、運営の仕組みを元に、さらに世代のニーズに合わせた鑑賞スタイル・来場動機を提案し、来場者の裾野を拡げます。また、様々なバックグラウンドを持つ方々が楽しめる展覧会を念頭に置き、バリアフリーへの配慮や、多言語対応にも取り組んでまいります。さらに、中長期的にコロナ後の「日展のあり方」を模索する中で、情報を発信するだけでなく、受け取る態勢を整えることで、鑑賞者との継続的なパートナーシップを築けるよう取り組んでまいります。

同時に、鑑賞者の利便性と運営の効率化を進め、チケット購入システムや、SNSの効果的な運用方法を検討、実践してまいります。また、将来に向けて、会場運営システムのデジタル化や新たな鑑賞方法のためのテクノロジーの導入にも取り組み、映像やアーカイブ、オンラインを組み合わせた展覧会の紹介など、本物を見たいと思ってもらえるデジタルコンテンツの準備を進めてまいります。

広報活動においては、費用対効果を念頭に、マーケティングを強化し、高齢者から若年層まで、それぞれの世代に適した効果的な広報展開を行うとともに、引き続き作品撮影の許可等、来館者による情報発信を促してまいります。

さらにSNS等広報媒体の多様化を研究し、効率的かつ有効な媒体で、基本的な情報や会期中の各種イベントをはじめとした公益法人としての取り組みを幅広く発信してまいります。また、新たな連携先を増やし、来館者の誘致を図ります。

そのほか、自治体や教育機関等のニーズに合わせたサポートを提供いたします。

「美術に関する講演会及び講習会の開催事業」として日展会期中に開催（昨年は感染症対策の観点から中止または内容を変更して実施）する「講演会」、「映像による作品解説」、「らくらく鑑賞会」、「ミニ解説会」については、制約がある中でも出来ることを積み上げ、段階的に再開する準備を進めてまいります。

「美術鑑賞及び創作に関する体験講座の開催事業」として開催する「わくわくワークショップ」及び

「夏休み一日ART体験 Oneday Art」については、感染症対策を万全にした上で、創造性を育む造形活動と鑑賞活動を連動させた日展独自の普及事業として継続して実施してまいります。昨年新たに会場で行ったわくわくワークショップ特別編「手紙を書こう！」については、作家と子供たちの交流のサステナブルなツールとして、継続してまいります。

「夏休み一日ART体験 Oneday Art」において制作した作品については、例年同様、広く一般の方々の目に触れる場所での展示も行ってまいります。また、今後も創作と鑑賞を併せて展開することで、芸術文化に接する楽しみを伝え、将来的な出品者、鑑賞者の取り込みに繋げてまいります。

「研究冊子及び図書の刊行事業」については、売店およびインターネットにおける販売方法の見直しをおこないます。また、図録バックナンバー・アートコレクション・グッズ類の在庫については、割引販売を継続いたします。さらに、出版物販売数が年々減少していることを受けて、今後の刊行事業の方向性を研究してまいります。なお、出版物制作のために撮影した日展陳列作品の画像データについては、希望する会員・出品者に販売いたします。

広報紙「日展ニュース」については、企画内容等の更なる充実を図るとともに、引き続き発行に係る経費の節減に努め、例年同様、日展出品者及び美術関係機関等に送付いたします。

また、「美術に関する研究及び調査事業」としては、日展会館を美術関係団体等の作品陳列や研究会の場所として貸し出します。

財務関係では、継続的に収支バランスの改善を図る中で、相当の維持費（管理費、固定資産税等）を要する「日展新会館」の売却に向け、必要な手続きを進めてまいります。

令和3年度事業計画書

自 令和3年4月 1日
至 令和4年3月31日

項 目	内 容
<p>「日本美術展覧会」の開催 (第8回日展)</p>	<p>日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書の5科からなる総合美術展。 (会 期)10月29日(午前10時開会)～11月21日(午後6時閉会) 毎週火曜日休館 (会 場)国立新美術館(東京都港区六本木7-22-2) (授 賞)内閣総理大臣賞・文部科学大臣賞 日展規則に定める対象作品中、特に優秀なものを大臣賞として各大臣あてに推薦。(各科1名以内) 内閣総理大臣賞 日本画、洋画 文部科学大臣賞 彫刻、工芸美術、書 東京都知事賞 大臣賞に次ぐ賞として、日展規則に定める対象作品中、特に優秀なものを東京都知事あてに推薦。(各科1名以内、計5名以内) 日展会員賞 日展規則に定める対象作品中、特に優秀なものに日展会員賞を授与。(各科1名以内、計5名以内) 特選 入選作品中、優秀なものに特選を授与。(各科10名以内、計50名以内) (巡回日展)東京会場終了後、京都、名古屋、大阪、安曇野、金沢を巡回予定。</p>
<p>美術に関する講演会及び講習会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会／映像による作品解説 ・らくらく鑑賞会 ・ミニ解説会 	<p>日展会期中に国立新美術館との共催により開催。専門的・客観的視点でのテーマを設けた講演会や各科独自にシンポジウム形式の討論会を行うほか、日展作家が各科出品作品を映像によりわかりやすく解説。(10月30日、11月3日、6日、13日、20日開催予定) 日展会期中に国立新美術館との共催により開催。日展作家が全科主要作品を解説。参加者は昼食、休憩をはさみ、ゆっくりと鑑賞。(開催検討中) 日展会期中の平日(土曜・日曜・祝日・展覧会初日を除く)に開催。各科出品作家が30分程度で主要作品を解説(予約制)</p>
<p>美術鑑賞及び創作に関する体験講座等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アートスクール ・わくわくワークショップ ・夏休み一日ART体験 Oneday Art 	<p>日展会期中に国立新美術館との共催により開催。(予約制 10月31日、11月7日、14日開催予定) 日展会館において夏休みの子供を対象に開催。(予約制)</p>

項 目	内 容
研究冊子及び図書の刊行 ・出版物制作、頒布 ・「日展ニュース」の発行	本年度の日展陳列作品を掲載した刊行物と絵はがき・写真類を制作、販売。 「日展目録」 作品名・作家名等を陳列順に列挙。 「日展作品集」 全会員、審査員、受賞者の陳列作品をオールカラーで収録。 巻末に作家名・作品題名の英訳を掲載。 別冊資料として、作家本人による作品解説および積文(書)を掲載。 「日展図録」(5科5分冊) 科別に全出品作品を収録。日本画・洋画・彫刻・工芸美術部門はオールカラー、書部門は一部カラー。 各図録巻末に作家名・作品題名の英訳を掲載。 その他、日展作家・作品に関連した商品を企画し制作、販売。 日展の広報紙。年3回発行し、出品者及び美術関係機関等に送付。 (6月頃、9月頃、1月頃発行予定)
美術に関する研究及び調査	日展会館のスペース貸出し 美術に関する研究及び調査の一環として、日展会館のスペースを主に美術関係団体等に貸し出し、作品陳列や研究会の場として提供。

新型コロナウイルス感染症対応のため、令和3年度事業計画書類における各事業については内容を変更又は中止する場合があります。